

7月の道内景況 情報連絡員レポート

夏休みの観光客で賑わう一方、多業種で人手不足は深刻化

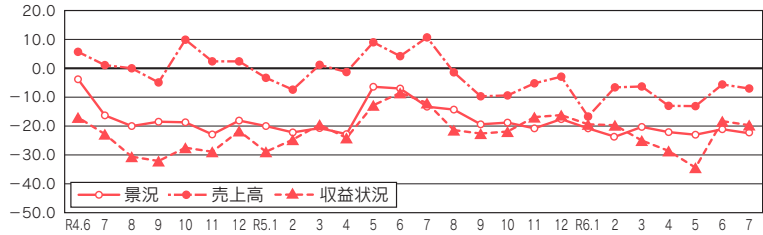
概況

前年同月の比較では、「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てが低下している。

6月から7月の推移では、「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てが低下した。

情報連絡員によると、製造業では、需要の低迷が続いているほか、受注の波が大きいといった報告が寄せられた。原材料や燃料の高騰によるコスト増加の負担が大きく、企業経営が厳しいとの声が寄せられている。非製造業では、観光シーズンに入り、国内外問わず多くの観光客で賑わっているが、地元客が減少しているとの報告があった。人手不足による減収のほか、特に運送業ではドライバー確保に苦慮しているとの声も多く寄せられた。

主要DIの推移



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
業界の景況	☔	☔	△1.4	☔	☔	0.0	☔	☔	△2.0
売上高	☁	☁	△1.4	☔	☔	△4.3	☁	☁	0.0
収益状況	☔	☔	△1.4	☔	☔	△4.0	☔	☔	0.0

(凡例) 30以上 ☀️ 10~29 ☁️ 9~10 ☁️ 11~12 ☔️ 13~29 ☔️ 30以下 ☔️

	全業種			製造業			非製造業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
販売価格	☀️	☔️	△7.0	☔️	☁️	△13.0	☀️	☀️	△4.2
取引条件	☁️	☔️	△1.4	☁️	☁️	0.0	☔️	☔️	△2.1
資金繰り	☁️	☁️	2.8	☁️	☁️	0.0	☁️	☁️	4.2
雇用人員	☁️	☁️	1.5	☁️	☔️	8.7	☔️	☔️	△2.1

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI)をもとに作成。天気は表示は凡例のとおりです。

製造業

食料品

- 味噌出荷量(道内)：単月(令和6年6月) 前年対比 79.0%
累計(令和6年1月~6月) 前年対比 91.0%
- 醤油出荷量(道内)：単月(令和6年6月) 前年対比 92.6%
累計(令和6年1月~6月) 前年対比 94.5%
- 味噌出荷量(全国)：累計(令和6年1月~5月) 前年対比 97.4%
- 醤油出荷量(全国)：累計(令和6年1月~5月) 前年対比 99.9%
- 令和6年7月の道内単月の出荷量は、前年対比、味噌は大幅減。醤油も悪い。
- 令和6年1月~6月の道内累計出荷量は、味噌・醤油共に悪い状態が続いている。全国平均と比較しても数字が悪い。
- 味噌の原料である国産米、外国産米の価格も相変わらず高い。外国産大豆の価格も高止まりである。
- 運賃上昇の影響もあり、副原材料の購入価格も値上げの要請が続いている。(全道)
- 今期も原料高となりそう。(道南)

木材・木製品

- 7月期のトドマツ原木の工場への入荷は、前月同期同様落ち着いている。市況については、在庫が不足している状況にはなく、弱保合で推移している。また、国有林材のトドマツ一般材については、オホーツク、道央圏、道北では複数の応札があり、活発な動きが出てきている一方で、道南圏については、不滞が続く出口が見えない。特に道南スギについては全く動きがなく、供給過多となっている。
- 原材料については、FITの影響から安定かつ高値安定で推移していたが、この4月以降価格が下がり、7月については昨年並みの価格に近づいている。7月期のカラマツ原木については、ここに来て供給過多で、合板業界がかなり苦しんでおり、しばらくはこのような業況が続くものと思われる。
- トドマツ製材市況は、先月に引き続き景気後退等の影響により、新規住宅需要が前月に比べ減少していることから、受注も減少している。産業資材も減少傾向で推移している。価格は弱気配~保合の状況にあり、カラマツミナについても、減少傾向で推移している。また、市況はカラマツ、エソ・トドマツは弱含みが見込まれる。紙原料は不足気味で、原材料価格が上昇しており、原料の取り合いが全道的に見られている状況であるが、国内チップ買取価格の上乗せはなく、希望価格にはほど近い状況が続いている。木質バイオマス原料については、順調に集荷されており、価格も高止まりの傾向から、下がり気味で推移している。(全道)
- 前月は昨年同月比で増加に転じたものの、7月は再び減少となった。
- 8月も夏休みがあることから荷動きは更に停滞すると思われ、上半期内での需要回復は見込めない。(十勝)

窯業・土石製品

- 7月の生コン出荷量はおよそ 337 千 m³。(前年同月比 105.1%)

- 地域別には、前年同月を上回った分会は 27 分会中、11 分会で前年と同数。前年同月と比較して、増加したのは道南、小樽、苫小牧など。一方、減少したのは札幌、宗谷、北東十勝などであった。(全道)
- 釧路地域では、公共事業の減少傾向が続いていることから、砂・砂利の在庫は大幅に増加している。
- 販売価格はある程度上昇しているが、売上減や人件費、運賃などのコスト増により、特に砂利採取に特化している企業の経営は非常に厳しい。(全道)
- 7月生コン出荷数量、前年同月対比 51.22%、4-7月累計実績 44.21%で低下している。(室蘭)

一般機器

- 相変わらず動きが良くない。
- 最低賃金を 50 円上げるためには、中小企業の価格転嫁対策と厚い補助金事業対策などをすぐに実施してほしい。エネルギーコストも足かせとなっていることから、電気料金の補助などは、年度末まで実施してもらいたい。(札幌)
- インバウンド観光客数等は増えている。
- 問い合わせ、受注については波が大きい。7月は少なかった。
- 天候が不安定で、現場作業が進まず、今後は農作物の生育に不安がある。(全道)

その他

- 相変わらず需要は低迷している。観光客も個人消費が多く、お土産等への出費は少なめである。
- 賃金や輸送費を将来への投資として値上げしたいのはやまやまだが、相変わらず足並みが揃わない。このままだと供給責任が取れない状況も考えられる。
- 9月以降原紙の値上げがささやかれている。
- 今後人手不足が進むと、北海道は益々原材料をコンテナで出荷するだけになる可能性が高いので、円安対策と人手不足対策と国民の気持ち晴れるような恒久対策を早急に実施してもらいたい。(全道)
- 新聞購読者の減少が止まらず、折り込みチラシ印刷業界も厳しい経営環境となっている。(札幌)
- 造船業界の業況
造船所各社、深刻化する人手不足への対応として工場見学や進水式見学会などを通じて将来の動き手発掘に繋がる PR を行っている。また、他産業との人の奪い合いが加速し、人手不足がさらに深刻化している。
- 組合員の業況
平日残業、土曜日日返上で作業が続いている。(室蘭)

非製造業

卸売業

- 総合スーパー道内撤退の影響もあり、一般消費材は売上を落としている。
- オフィス機器や空調機器は、引き続き製品納入の遅れや現場の人繰りの問題で減収傾向。

- ・販売価格は上昇傾向が続いていたが、落ち着きを見せている。
- ・組合施設の貸会議室・展示室の需要は旺盛で、展示会やセミナーの開催が増加している。(札幌)
- 令和6年7月期の当組合買付高は仲卸、荷受1,784,807千円(税抜)で、先月6月期実績1,654,787千円(税抜)より130,020千円ほど増加した。6月に引き続き7月のお中元の需要増が奏功したと思われる。ただ全国的な酷暑で生産品が品薄傾向であり、来月期以降の高騰に懸念がある。(道央)
- エアコン設備工事店の人手不足による施工遅延状況が続いている。(全道)

小売業

- 前年比較 物販 94.1% 金融 92.2%
- ・北海道の観光シーズン真っ只中、円安の影響で海外からの観光客が特に増えており、中心市街地の人通りをはじめ飲食店は賑わっているが、地元の人がお店に入れないこともある影響からか、飲食店の売上は79%と伸び悩んでいる。
- ・業種別では、旅行業が207%、設備関係が160%と好調で、各種補助金を誘引材料にリフォームの需要増加が伺える。一方、取扱額が多い衣料品が88%、食料品が93%と減少しており、全体では前年割れとなった。(旭川)
- 会議所が市内大型店とスーパーの6月の売上状況をまとめた。合計は前年同月比8.56%増。特に大型店は15.9%増と大幅に伸び、6月に閉店した総合スーパーの閉店セールが全体を押し上げたことと見ている。大型店は閉店した総合スーパーが56.2%増と大幅に伸び、その他の大型店もこの閉店セールにつられる形で前年同月比プラスとなった。部門別では衣料品が16.5%増、家庭用品が70.6%増。会議所は総合スーパーの閉店セールで、若者を中心に衣料品や調理器具などの家庭用品の購買が伸びたとしている。スーパーは5.9%増、特に食料品の青果類や肉などの売上が好調だった。会議所は昨今の物価高騰で購買のグレードを落としていた分回復傾向にあるほか、消費者の節約志向が高まったことで価格が安いプライベートブランドへのシフトが進んでいると見ている。(帯広)
- 7月27日(土)の特売日は、9時頃には平日のような客入りだった。地元客は「おたる潮まつり」の会場に近い当組合周辺の交通規制が始まる前に買い物を買ったようだ。
 - ・7月も観光客が多く、場内は食堂利用者と観光客で混み合っていたが、店側は気がついたら地元客が来ていないとの声もあった。(小樽)
- 人口減少や節約のためか、販売数量が落ちている。また、少しずつ仕入価格が上がってきているので、厳しい経営状況は変わらない。(稚内)
- 7月、売上は前年並みとの声が多かったものの、収益状況は業種にもよるが仕入コストの上昇から前年割れ、加えて先般のゼロ金利解除に伴いここへ来て銀行から借入金の利上げ要請を受けたという組合員店もあり、取引条件は悪化傾向である。そのような状況下、組合員店1店より組合員であることの利点を感じられないとの理由から脱退の申し出があった。一昨年のクレジット事業廃止から共同宣伝等も無くなり、共同事業が大幅に減ったことが要因と思われる、当組合のような共同購買によるコスト削減等が行えない異業種組合の今後の舵取りを模索している。
 - ・旅行業は、秋の旅行シーズンに向けた相談や問い合わせが増えてきているが、オーバーツーリズムの影響から宿泊費が予算に合わず見送るケースが多いものの、取扱高は旅行代金の高騰から前年をクリアしている。携帯電話販売業については、付随する各種サービスや商材の丁寧な説明に注力し、本体以外での利益確保を実践中。保険業は、既契約の見直し提案を積極的に実施し、成約をいただいている。(釧路)
- 東町の弥生地区に大型スーパーがオープンし、食料品が安く、好評。また、秋には本輪西にも同店がオープンするので、当組合にとって大きな打撃となる。(室蘭)
- 今月から夏休みに入り、引き続きアニメ映画「名探偵コナン」の影響は大きく、国内外問わず多くの観光客で連日賑わっている。そんな中、当連合会においては、函館朝市一店逸品ブランド「セレクト朝市」の引き合いが少しずつ増えてきており、函館市ふるさと納税返礼品の他、企業の福利厚生や株主優待など順調に販路が広がっている。今月からは新たに航空会社の公式産直ECショップからも申しかけ、地域の特産品として、3,000万人以上のマイレージ会員様へアクセス出来る事となり、新たな販路開拓に期待している。(函館)
- 7月はおやすみ観光のお客様が増え、お土産店、ホテルの売上が伸びてきた。飲食店、魚小売業は売上の商品価格も上がって、売上は伸び悩んでいる。今年も鮭、サンマ等の入荷が少なくなる模様。夏の生イカもまったく入荷のない状況が続いている。(道央)
- 7月は和商の日とクルーズ船が重なり、市民と外国人とで賑わった。和商の日には、市民サークルや和商市場に無い和菓子やケーキ販売の催事も出店し、賑わいを見せている。夏休みで個人観光客も増え、ツアーや修学旅行など団体客も伸びてきている。市民向けのスタンブラーやマル得福袋も好調である。(釧路)
- エアコンの売り上げが好調で、全体を押し上げている。しかし、AV商品はオリンピック需要を期待したが、前年96~97%ぐらいで推移している。(全道)
- 売上高 2,570万円 前年比 100.69%
利用組合員の業況に大きな変動はない。(札幌)
- 天候不順によりアスパラの生育が悪く期待した売り上げが伸びず、それに伴う資材の売り上げ目標も達しなかった。(旭川)
- 7月共通駐車券の利用は、前年同月比144.1%。買物共通バス券は、前年同月比60.9%。共通駐車券の利用は、前年比超え。
 - ・中心部のビルでは、航空工事、商店街では、夏まつりイベントが始まる。(帯広)

サービス業

- 当年度4月からの累計発注業務量は、昨年度に比べて増えており、売上も増加している。しかしながら、この増加分は、ほぼ人件費・資材・消耗品等の経費に回すことになり、将来に向けての積極的な設備投資ができない状況が続いているが、中長期的には業界全体が成長し

ていくのではとの意見も出てきている。

- ・近年の高気温、豪雨などによる現場作業環境の悪化が目立つようになってきたため、現在、政府の「熱中症予防強化キャンペーン」に従い、業界を挙げて、現場作業時の熱中症予防行動の呼びかけの実施や、労働安全衛生に関わる法改正や義務化に合わせて、会員企業に周知すべく広報活動も行っている。(全道)
- 依然として大きな状況の変化はない。営業努力で持ちこたえた。(全道)
- 道内には約880社のIT企業があるが、その約70%を中小IT企業(従業員規模50人以下)が占めている。バブル期に独立開業したIT企業が多く、経営者の高齢化が進んで、後継者問題を含めた事業承継が大きな経営課題となっている中で、最近、首都圏の大手システム開発企業がM&Aによる道内の優良中堅システム開発会社を企業買収した。システム開発に伴うIT業界の案件受注構造は委託、再委託を繰り返す多重下請け構造のため、案件単価への価格転嫁がなかなか進まず、中下流に位置する道内中小IT企業は十分な対価を得られていなかった。今後、AIの普及で開発業務が確実に変化することや、このままでは既存人材の高度スキル習得も難しいことに加えて、人手不足を解消する採用の厳しさや人材の離職に頭を悩ませている今こそ、増収基調を維持しながら大手システム開発企業の傘下に入ることがベストではないかとの判断が優先した。今後、道内中小IT企業にとっては企業存続の切り札として同様の選択をする試金石となるのではないかと注目されている。(全道)
- インバウンドの増加、道内・道外客の減少。いずれも前年の実績には届いていない。(十勝)

建設業

- 原材料費の増加は落ち着きの兆しも何われるが、今後の推移には注視する必要がある。
 - ・人件費の増加は続いており、収益への影響が生じているほか、雇用手不足による事業への影響も出ており、新たな事業獲得が難しい状況にある。
 - ・4月からの働き方改革の対応に苦慮している。(札幌)
- 官庁工事は、第一四半期(4~7月)の大量発注時期を経過したが、懸念していた入札不調はそう多くは起きておらず、混乱もしていない。札幌市の学校のエアコン工事が、予定していた100校分の入札が行われ、僅かの不調はあったものの、電気工事、設備工事ともほぼ施工業者は決定した。札幌市の工務部局から教育委員会に「各学校にて施工時間や時期その他の要件を緩和」するよう通達しているが、各校の施工を予定通り円滑に行えるかが肝心なところ。「残業時間の上限規制」も遵守していなくてはならない。また、発注量が大幅に増加予定の防衛局発注工事は、電気と設備を分離しない「一括発注」や、多くの施設整備をまとめて発注するような大手企業有利の発注が増えており、地場工事会社にとっては取り組みづらい傾向が強まっている。
- 民間工事は、戸建住宅と分譲マンションが、建築費高騰の影響により、発注量が冷え込んでいる。また、電気通信分野で発注量が拡大してきた携帯電話基地局工事が、モバイル各社の様々な事情により今年度は発注が冷え込んでいる。一方で、大型再開発は予定通り進展し、円安によるインバウンド増加もあってホテル計画が目白押しで、半導体製造工場関連の千歳、恵庭、北広島への投資も堅調で、業界全体として「工事が多くて人材が不足」という傾向は変わらないが、ここに来て「工事があるところにはあるが、無いところは無い」という「二極化」が目立つようになってきた。
 - ・「働き方改革」について、官庁工事は「週休2日型」が本格導入され、今後更に進展することを期待する。民間現場は、ゼネコンによって「隔週で土曜日閉所」などを実施するケースも僅かではあるが出てきた。今後の一層の進展を期待するところだが、工事が多くて人材不足の状況下で、そうたやすく進展しないのでは、との懸念もある。
 - ・「販売価格」について、ある程度の価格転嫁は考慮されるようになってきたが、資材費、人件費、燃料費その他の価格高騰のスピードが早いため、収益はほとんど改善されていない。(全道)
- 【組合員の業況】
公共工事の発注については、9月入札の1件を残し受注が完了。各社とも民間工事(修繕等)の依頼に關し、公共工事との兼ね合いを含め対応には苦慮している。
- 【問題点】
組合各社とも新規雇用が進まず、仕事量を考えると厳しい状況が続いている。
社員の高齢化と技術承継が進まず、厳しい状況にある。
- 【地域の実情】
名寄市では、夏の最大のイベントである「てっし名寄まつり」が終了し、多くの市民が楽しんだ。
作況状況は、稲作・畑作とも順調に生育が進んでおり、出来秋に期待がもてそうな状況。(名寄)

運輸業

- 生鮮野菜、果物等の流通も増えたことで稼働は増えている。相変わらずの人手不足の様子でドライバーは常時募集されている。(小樽)
- 扱ひ品目、輸送形態により差がある。
 - ・小麦と夏野菜の収穫が順調で売上げが増加。運賃も徐々に上がってきている。
 - ・人件費や燃料をはじめ、外注費や車両代他他価格も値上がりしているため、収支はあまりよくない。
 - ・どこもドライバー不足のためトラックが足りず、輸送の依頼が来るが応えきれない。(全道)
- 農産物について、野菜類は少雨の心配が出ていたが、今のところ順調に生育している。馬鈴薯も順調に生育しており、荷動きも活発化されると思う。一般カーゴについては、例年通りの荷動きになっている。
- ・高温が続いているため、飲料水を中心に物量が増加しているが、「2024問題」もありドライバーの確保に苦労している。(石狩)